



コーちゃん・オーちゃんの 「見つけた！豊岡元気人」



人と環境にやさしい

石けん作りに取り組む元気人

但東地域で人や環境のことを考え、オリジナルの石けん作りに取り組み、家庭から情報発信をする元気な女性を紹介します。

野世英子^{のせひでこ}さん(38歳)但東町奥矢根

自分で石けん作り

「わが家ではこの石けんを使うと肌がカサカサにならないですよ」と話すのは、石けん作りに取り組む野世英子さん。

野世さんは、3人目の子どもを妊娠していた平成19年3月ごろ、肌がカサカサになるなどの体調の変化があり、図書館やインターネットで食べ物や洗剤などについて調べたり、商品を購入して、成分の表示を確認したりしました。

「いろいろ調べているうちに、合成化学物質が人や環境を悪くしていることに気付きました。そして、合成化学物質を使わないで、自分で石けんを作っている人がいることが分かり、石けん作りを始めました」と、きっかけを話す野世さん。

石けんの作り方って？

野世さんは、「石けんは結構簡単に作れるんですよ」と話し、石けんを作り始めます。

石けん作りは、まず、材料の配分を計算し、2つの鍋を用意します。1つの鍋に油を

入れて温め、もう

1つの鍋に水酸化ナトリウムと水を入れます。すると水酸化ナトリウムの鍋はどんどん温度が上がり80度以上になります。そ

こから2つの鍋を40度になるまで氷などで冷まし、そして、1つの鍋に入れ、20分間混ぜ続けるクリーム状になります。それを牛乳パックで作った型に入れ、約1カ月乾燥させ、切って完成です。

野世さんは「平成20年3月ごろに初めて石けんを作りました。油の配合、泡立ち方、しっとりさや硬さとか、今の石けんになるまで苦労しました」と話します。

オリジナルの米ぬか石けん

野世さんは、オリジナル石けんを作ろうと、油は、オリブ油やココナッツ油、米油などを使ったり、米ぬかやミカン、ハーブ、ハチミツなどを入れたりします。

「米ぬかは、無農薬のコウノトリ米や赤米のぬかです。手作り石けんで肌がかわりま



▲人と環境にやさしい石けんを作る野世さん。趣味は、石けん・ハーブ・お菓子作り、読書

した。人や環境にも良い手作り石けんをもっと広げたいのですが」と話す野世さん。

薬事法では、自宅で作った化粧石けんは販売できないため、県内の工場で製造した手作り石けんを販売しています。

日用品の中身を確認して

「肌が弱い方などに、合成化学物質の悪さを伝え、コウノトリも住める環境のまちだから、なお自然を守っていきたいです。ぜひ、興味がある方と、家で一緒に石けんを作りたいです」と野世さんは話します。

今では、「今使っている日用品の中身をご存じですか」というチラシを作ったり、油が付いた食器はボロ布を使ってふき取り、下水道に流さないなど、環境に配慮した取り組みも進めています。

保育園に広報くんがやってきた!

22

静修保育園

(日高)

〈園児46人〉



神鍋高原に向かう国道48

2号沿いに位置し、周囲には美しい田園が広がる静修保育園(日高町夏栗)。

10月23日、「落花生の収穫」が行われましたので、その様子をのぞいてみました。

みんな元気に出発だ!

園では、地元の「道場老人クラブ」の方々の協力をいただきながら、年間約30種類の野菜を育てています。

普段は園舎の裏にある畑で収穫しますが、「落花生」だけは、道場老人クラブの畑が舞台です。

「右はいいかな?左はいいかな?」。長靴姿の園児たちは、車に気を付けながら元気に「落花生畑」へ出発



しました。

たくさん採るぞ!

たくさん

収穫しよ

うと楽し

みにして

いた園児

たち。し

かし、今

年は、野

ネズミが一足早く

収穫して

いました。

それで

も園児たちは、

落花生の殻がい

っぱい落ちてい

る畑から、無事に

育っている落花生を探し出し、

力いっぱい収穫します。例年

と比べて少ないものの、気付

けば、軽トラの荷台がい

っぱいになっていました。



摘んで

きれいに洗いましょー!

園に帰ると、落花生を枝から一つひとつ摘んでいきます。

「先生!見て、これ!」「おもしろい形!」

「ちょん

まげ!」お

化け!」などと笑顔で言いなが

ら、慣れた手つきで作業

を進めていきます。



摘んだ落花生

はきれいに水

洗い。残った

葉っぱも栗の

木の肥料にし

ようと園舎裏の

畑へ運びます。大変

な収穫作業も、みんな

力を合わせて無事終了

することができました。



最後は、おいしく

いただきます!

落花生は、塩ゆでしてその日のおやつに。収穫した日

でないと食べること

ができません。おやつは、

自分たちで収穫した

分、おいしさも格別

でした。



顔の笑

剣道の素晴らしさを伝えたい!

『豊岡剣友会少年部』(豊岡)

「ヤー、メーン」。豊岡小学校体育館(中央町)に元気な声が響き渡ります。

「豊岡剣友会少年部」は、昭和30年ごろ、豊岡剣

友会が市の剣道教室

を指導していたこと

をきっかけに発足し、

昭和49年に少年部が

分離して独立し、今

の形になりました。

練習は火・木曜日

の午後6時30分から、

豊岡小学校体育館で

行い、現在、小学1

年生から5年生まで

の23人が在籍してい

ます。

部員たちは、練習

の始まる15分前に集

まり、きちんと一礼

をして体育館に入り

ます。新入部員は、

まず、礼の仕方や角度、正座

の仕方、剣道着の付け方など、

作法の指導から始まるため、

練習時の動作の機敏さ、姿勢

の良さ、礼儀正しさには驚か



されます。

練習は、準備体操から始ま

り、レベルに合わせて構えか

ら足の運び、竹刀の振り方

などを行います。指導

に当たるのは、豊岡剣

友会の会員など6人で、

個別に丁寧な、厳しく

指導します。そのかい

あって、部員の中には

但馬大会でトップレベ

ルの成績を挙げる選手

もいます。

同部代表で指導者の

小西誠一さん(若松町)

は「教え子がどのよう

に成長し、変化してい

くか楽しみ」と優しい

目で話します。しかし、

中学校に入ってから

続ける子どもが少なく

ことが悩みとか。小

西さんは「練習を続け

るためには、子どもも保護者・

指導者が三位一体になること

が必要。これからもっと剣道人

口を増やし、剣道の素晴らしさ

を伝えたい」と話していました。